

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ナノデス アクキュライン7		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG 0.051	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

テストボール：アクキュライン7

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

研磨剤 番

4 インチ

比較対照ボール：アクキュライン6

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

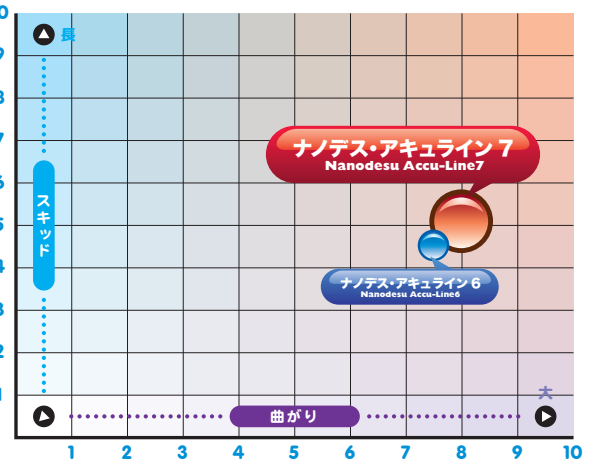
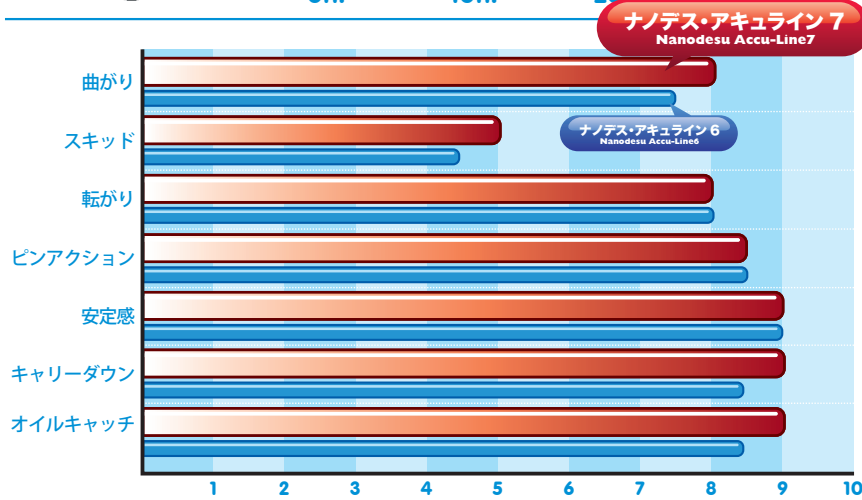
PAPからピンとの距離 インチ

研磨剤 番

4 インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

アクキュラインシリーズも第7弾になりますが、今までアクキュラインシリーズを投球して頂いても分かるように、アクキュラインシリーズは投げ比べても同じような性能はなく、それぞれ特徴を持った性格を持ち、各々それぞれのコンセプトと使う領域を分けて作り上げてきました。今回アクキュラインVIIを作り上げる為に開発チームは次の二つの領域に着目しテストを続けてきました。まず一つ目はスキッドレベルをどの領域におくのか。二つ目は歴代アクキュラインの中でも最もスキッド・フック・ロールのバランスが良く、オイルキャッチとバックエンドリアクションに安定感のあるアクキュラインVIをモチーフに更なるパフォーマンスを加えることです。まず今回のアクキュラインVIIを加え走る順番に置き換えると1、4(アクキュコア)、6、7、5(ショット)、2、3になり、バックエンドリアクションにおいては6よりも上回る曲がり幅も大きいシャープなリアクションを得ることができます。今やパフォーマンスの殆どを決定させるカバーストック。そのカバーストックにアクキュラインVIをモチーフにアクキュラインVIIで使用した"AVEXMAXXリアクティブ"をさらにバージョンアップ。スキッドの中にもオイルを捉える粘り強いキャッチ力を持ち、尚且つバックエンドでアグレッシブに運動させる為、アクキュコアを進化させた"AC Energy Core2"を採用。ただ曲がるイメージだけでなく、しっかりとピンを飛ばせるポケットに対しての入射角を取れるよう拘りをもって作り上げました。今回のコアは非対称ですが、マスバイアス差異が小さい為マスバイアスのマーキングは施していません。対象コア同様のレイアウトでも十分なパフォーマンスも得られますが、Pin-CGの延長上6-3/4に仮想マスバイアスを作り、レイアウトを施して頂ければコアの持つパフォーマンスをより得られると思います。

特記事項

前作アクキュラインVIよりスキッドは短く、バックエンドリアクションも大きい。アクキュラインVIのトーナメントや実戦におけるデータをもとに、更なるパフォーマンスを求めました。